

人生 仕事

物理学者

伊達 宗行さん(87)

▶▶ 6

かたる 談

40年ぶり仙台に帰郷 伊達の歴史を学ぶ

95年、科学と軍事研究の関わり方が問題になりました。日本物理学会は67年の臨時総会で「軍隊からの援助、協力関係は一切持たない」と決議しました。僕も軍事技術への科学の対応には賛成しないが、しかし現実は米国をはじめ軍民一体になった国がたくさんある。例えばロケットの研究の場合、軍事と民間の境界線をどこに引くのか、そう単純にはいかない。原則を通そうとすると、国際会議

なか難しい問題です。△原研には6年間在籍。公職を退き、99年春、70歳すぎで仙台に帰る。実に40年ぶりの帰郷、僕は「浦島太郎」でした。仙台に着くと「街が大きくなった」と感じました。昔よく乗った市電がない。子どもの頃に行った本屋もそは屋もありません。昔は仙山線の北側には家がなかった。芋沢は旧制中学校時代に炭焼きをやった所、その辺りまでとんとん住宅

せん。仙台に戻り、夫婦で「恐る恐る住んでいた」といったところで。△昨年春、仙台藩ゆかりの人々の末裔でつくる仙台藩志会の会長になる。ゆかりの地訪ねる

親子相伝、伊達の「顔」で藩志会に入りました。藩志会の会長を長く務めた伊達篤郎さん(2007年死去)は岩出山伊達家の出身で、母の弟、つまり叔父に当たります。会長になっ

△日本原子力研究所(原研)時代、日本物理学会の会長に就任した。歴代会長にはノーベル賞の湯川秀樹博士や、茅誠司、有馬朗人、東大総長などそうとうたる名前が並ぶ。決議の運用見直し

物理学者をまとめる組織で、会長ポストは対外的に「日本の顔」の役割を果たす大事な仕事です。僕が会長をしていた19

の場で論文発表や決議案採択の際にさまざまな整音が起きてしまう。そこで僕は、「67年決議を「明白な軍事研究以外は問題としない」と、運用の見直しを行いました。科学の進歩に国際交流は欠かせない、というのが僕の信念だ。最近も日本学術会議で「軍事研究と科学の関係」が議論になっていますが、なか

地が広がっていました。僕は車は運転しません。妻の運転で仙台の北を巡る道路(北環状線)を走りまわって、国見から八乙女にかけて、発展した様子がよく分かります。あの風景が発展の象徴のように見えました。遅まきながら伊達の歴史、文化の勉強です。

今年、河北新報に「山元町文化財、仙台藩家臣・大條家ゆかりの茶室」大震災

で被害」の記事が掲載されました(2月7日宮城県版)。茶室は江戸時代、藩主の後継者問題で功績を挙げた先相が、殿様から賜ったものです。元は仙台の川内の屋敷内にあり、明治時代に大病院近くのわが家に移築されました。昭和の初め、僕が3歳の時まで庭

にあった建物です。所有権は移りましたが90年もの間、地元の人たちに保存したいことだと本意にありたいことだと思っ

(聞き手は生活文化部・佐藤昌明)

▶▶ 次回は17日掲載



仙台藩志会で一族そろい。左から岩出山・伊達宗尚氏、登米・伊達宗弘氏、本家・伊達宗宗氏、宗行さん、昌理・伊達元成氏(北海道伊達市) 2016年4月、仙台市内